

神奈川歯科大学歯学部歯科インプラント学講座 顎・口腔インプラント学分野

神奈川歯科大学歯学部歯科インプラント学講座顎・口腔インプラント学分野
教授 河奈裕正

1. 沿革

国内大学における黎明期のインプラント臨床は、診療科や個人の各々が診療に携っていたため、何れの施設においても治療内容の全体像が把握できないという類似の悩みを抱えていました。本学でもこのような状況が問題視されていたため、遡ること約31年前の1991年5月、インプラント治療委員会が組織され、2000年10月にインプラント科が開設されました。これにより、学内のインプラント治療はすべてインプラント科が統率することになり、補綴科兼務で林昌二先生が初代医局長に就任されました。

そして、2002年に横浜研修センターが開設されると、2004年1月、林先生が横浜に専属移籍され、横須賀附属病院は、口腔外科兼務の水沼秀之先生が医局長にご就任、北條了先生、木本克彦先生、田中欣也先生、渥美美穂子先生（以上、補綴科）、二瓶智太郎先生、堤弘治先生（以上、保存科）による兼務体制が確立され、その後、医局長は、2005年に田中先生、2006年に臨床教授の笹倉裕一先生、2007年に河合良明先生が担当されました。

2009年、インプラント診療科の専門分割化計画が立ち上がり、口腔外科を主体とした顎再建インプラント外科と、補綴科を主体とした歯科インプラント科とに二分され、顎再建インプラント外科は笹倉先生が、歯科インプラント科は木本先生が診療科長となり、共に口腔外科、補綴科の兼務体制の運用が開始されました。

しかし、インプラント診療に対する社会的ニーズの高まりにこたえるため、2010年4月、インプラント科構成員は兼務から専属にすべきことが理事会で承認され、同年10月、笹倉先生が科長、河合先生が顎再建インプラント外科部門長、渥美先生が歯科インプラント部門長となって専属体制が敷かれるようになりました。

その後、2012年、2013年、2014年に笹倉先生、河

合先生、渥美先生がそれぞれご退職されたため、2014年4月、二分されていた診療科が再び統一、診療科講師の宗像源博先生が診療科長となられ、同時にインプラント科はインプラントセンターに名称変更されました。

2018年5月、既に診療科准教授となられていた宗像先生がご退職され、同年8月、外科的難症例の紹介型診療科を目指して、河奈裕正（私）が慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室より診療科教授として赴任し、診療科の名称が「顎・口腔インプラント科」に変更されました。

2021年4月、全学の講座改変に伴い、附属病院での「顎・口腔インプラント科」を継承したまま、「歯学部歯科インプラント学講座 顎・口腔インプラント学分野」が新たに誕生しました。河奈が分野責任者となり研究、教育、臨床のバランスの取れた教室作り着手し始めたところです。

2. 現状

1) スタッフ

河奈が、大学院教授、歯学部教授、診療科教授を兼務し、淵上慧診療科准教授兼歯学部助教、永田紘大助手、奥濱裕里恵医員、若森可奈医員、住友寛和医員、大久保学医員、キムヒョンジン医員、鶴岡隼人医員の各人が、スタッフとして研究、教育、臨床に従事しています（図1）。

2) 研究

当分野の目指すところは、歯科インプラント学におけるオリジナリティーの追求です。河奈の赴任以来、外科学的研究を河奈、歯周病学的研究を淵上診療科准教授、補綴学的研究を永田助手が、それぞれの班長になって研究を開始しました。

河奈は、ロボットサージャリー（図2）、ハプテックス技術、遠隔手術、骨代謝を、淵上はインプラン



図1 分野員と研修医。病院棟12階会議室ラウンジにて。

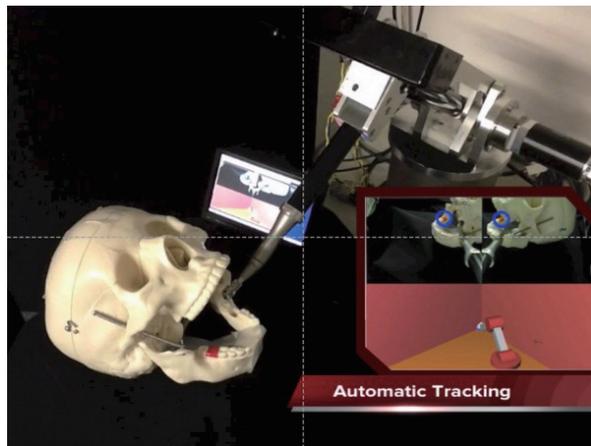


図2 ロボットインプラントドリルの開発



図3 ガイデッドサージャリー

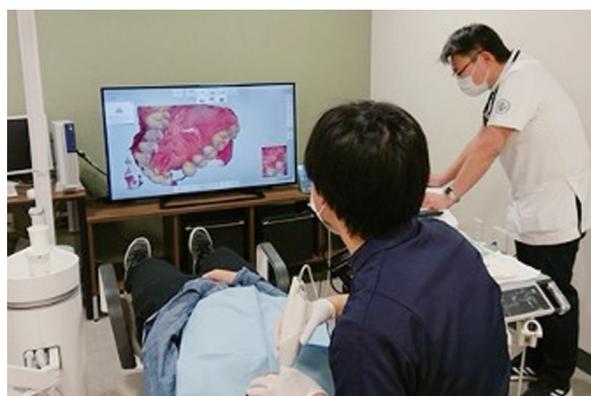


図4 口腔内スキャナーによる印象採得

ト周囲炎を、永田は上部構造の適合、力学的分析、SDGsに貢献する材料開発をテーマとし、さらに、インプラントの表面性状について造詣の深いUCLAの小川隆広先生、また、破骨細胞を中心とした骨代謝研究をご専門とされている慶應義塾大学医学部の岩崎良太郎先生を客員教授にお迎えし、教室員が一丸となって、研究に取り組んでいます。

2022年4月から当分野は大学院生を迎えることができることとなります。トランスレーショナルリサーチやリバーシブルトランスレーショナルリサーチに向けて、基礎学の先生方にもご教示いただきながら、10年先、20年先の歯科医療、医療に貢献できる研究を進めていきたいと考えています。また、同時に、未来の歯科医療や教育を支える研究者を育成し、これらの多角的な努力を蓄積しながら国内外の交流も盛んにし、アジアの歯科インプラント学の一大拠点を構築していきたいと思いをしています。

3) 教育

主として、補綴学講座の木本教授、星憲幸教授にご

指導いただきながら、歯学部の1年生、3年生、5年生の講義、5年生、6年生の臨床実習、東京歯科衛生士校3年生の講義を担当しています。また、多くの研修医の先生に、単独型や複合型で診療科に所属していただき、実臨床を通じて、歯科インプラント学の素晴らしさを学んでいただいています。

ご存じのように、歯科インプラント学は、最近のCBTや歯科医師国家試験において出題数が増えるなど、斯界において、ますます、重視されるようになってきています。解剖学を中心とした基礎学から臨床他科の領域をも横断的に含んだ知識が要求されるようになってきており、次年度は、4年生の総合歯科学講義の一部にもお誘いを受けています。

歯科インプラント学の集学的知識と技術とを、教育の場で丁寧に、学生、研修医に伝授していきたいと思っています。

4) 臨床

臨床において、私から医局員諸君に主にお願ひしていることは、安全な歯科医療、お互いの挨拶、院内の

方々との一家族の如き関係、の三点です。すなわち、歯科インプラント臨床を通じて、患者さんが安全面で安心できる、院内横断的な風通しの良い歯科医療の実践です。

アカデミア・ホスピタルの一員としての診療をミッションとして強く意識し、臨床各部門とのシームレスな歯科医療の実践や、病院を支える有能な歯科医師やコデンタルの育成に目標を置いていきたいと思っています。

現在、日本顎顔面インプラント学会専門医兼指導医 1 名、日本口腔インプラント学会専門医 1 名を診療科に有していますが、専門医や専門衛生士を受験している最中の者もあり、一人でも多くのスペシャリスの誕生を促していきたいと考えています。

今後、より高度なデジタルインプラントデンティストリーを取り入れたインフラ整備を行い（図 3, 4）、エビデンスに基づいた先進的な歯科医療の開発やトランスレーショナルリサーチの推進、これからの学生や若手歯科医師が避けては通れないインプラント治療を

取り入れた包括的歯科医療の教育を兼ねての臨床に注力してまいります。

ま と め

神奈川歯科大学における学術、教育、臨床活動に至誠の心を尽くし、歯科インプラント学講座顎・口腔インプラント学分野を発展させていきたいと考えています。神奈川歯学の皆様におかれましては、より一層のご指導を宜しくお願いいたします。

謝 辞

本稿を終えるにあたり、沿革を詳細にご教示いただきました神奈川歯科大学附属横浜クリニック・横浜研修センター病院長、歯科インプラント学講座高度先進インプラント歯周病学分野教授の児玉利朗先生、神奈川歯科大学附属病院長、歯科補綴学講座有床義歯補綴学教授の井野智先生、病院長秘書の天吞美紀子様、神奈川歯科大学附属病院口腔外科特任教授の笹倉裕一先生、MA デンタルクリニック院長の渥美美穂子先生をはじめ、当分野を支えていただいているすべての方に心から感謝の意を表します。